

カバン一つ持って家を出た
まだ早いのにふくれた地下鉄に乗って
向かった先は大学じゃなかった
まだ一回目だから許してください

正直この書き方もう飽きたけど
手放せなくなってる
じゃあこの環世界の中に
もう一つ環世界をつくれればいいんじゃない？（図1）

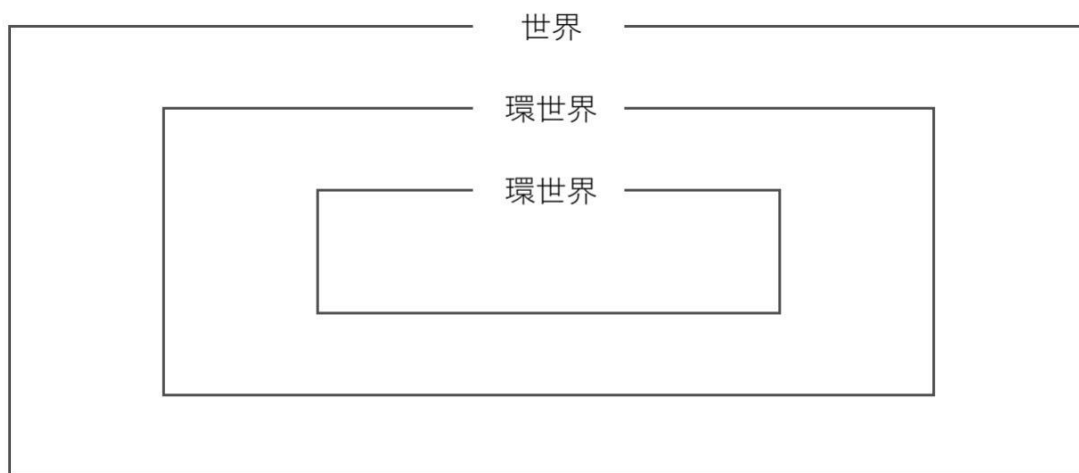


図1. 世界の中の環世界、その中の環世界の図

せっかく完璧にした髪の毛は
梅雨に丁寧に揉まれた
おろしたての上下も汗をかいている
早起きした僕が目が休むことを
双子が覆って許さない

早起きして夢を見に行く人の群れ
夢から覚めた労働者の日常
早く LINE を返したいのに
役に立たない電波
電波のいない改札の外
落ち着かない指先
見紛うはずのない僕の光
おかげで雨は止んだが
傘はまだ忙しそう
外国人観光客がたくさん
こんな早いのにすごいな
現実から逃げ出してきた女子高生
彼女らのそれはまだコスプレではない
大人になりたい小人たちは
小人のまんま待ちきれない目を
まんまるにしている
まんまるな目はやがて
朝の水溜りに同化する
それを見てイラつく父親
同文、母親
刻一刻とせまりくる夢
夢は現実ではないが嘘ではない
ようやく見られた夢は
何よりも甘美で
大人になってしまった僕も
小人にもどったようだった
夢の時間はその輝きが
僕の目に届くように
一瞬で

普段の木曜日の 90 分は
どんなに長いんだろうか
僕はこの幸せを味わうために
毎週木曜日手ぶらでも
授業に出てたんだ
少なくとも
半年後には
またそんな一瞬を
訪ねに行くんだろう
何度でも

さて
来週はちゃんと来るかって
ちゃんと行くよ多分
分からないけど